

編集後記

2016年度の部会報は前回と同様に水質国際会議（NPC2016）の報告を含めるためにこの時期の発行とさせていただきます。年度末に向かってお忙しい中、原稿を準備いただきました渡邊副部長や特別寄稿として今年度で部会活動をご引退される目黒顧問をはじめとした執筆者の方々に改めて御礼を申し上げます。

我が国の水化学分野を立ち上げてこられた石樽先生と目黒顧問が今年度限りで水化学部会の運営から引退することを表明されており、長年にわたるこれまでのご指導に対して厚く御礼を申し上げたいと思います。

東京電力殿福島第一発電所の事故から間もなく6年を経過しようとしており、炉内の状況を把握するための具体的な調査も進みつつあることが報じられております。一方で、PWRプラントでは再稼動がかなり進んでいますが、BWRプラントでは再稼動に向けての努力が続けられています。現在は原子力発電所の多くが停止していても電力不足に陥ることはありませんが、地球温暖化の抑制や日本のエネルギーの安全保障といった長期的な視点を考慮すれば、原子力の必要性は変わりの無いところと考えられます。福島事故の収束と再稼動後の原子力発電所の安全運転に本部会の活動が少しでも貢献できることを期待して筆を置かせていただきます。

（日立 GE ニュークリア・エナジー 長瀬 誠 記）